

病害虫発生予察情報予報第 4 号

佐賀県農業技術防除センター

6 月 1 日～8 月 31 日の 3 か月間は農薬危害防止運動期間です。

農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理を徹底しましょう。

1. 農薬は別の容器等へ移し替えず、施錠された場所に保管しましょう。
2. 農薬を散布する場合は風向きに注意し、農薬が飛散しないよう注意しましょう。
3. 土壌くん蒸剤を使用する場合は、防護マスク等の防護装備の着用、施用直後のビニール等での被覆を確実に行いましょう。

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
水稲 (早期)	紋枯病	多	多	143～144	
	斑点米カメムシ類	多	並	161～162 180～183	
1. 紋枯病 各圃場での発生状況を確認し、病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。					
水稲 (早植え)	穂いもち	やや少	並	137～142	 斑点米カメムシ
	紋枯病	やや多	多	143～144	
	トビイロウンカ	やや多	やや多	152～154	
	コブノメイガ	やや多	多	159～160	
	斑点米カメムシ類	多	多	161～162 180～183	
1. 斑点米カメムシ類 雑草地において斑点米カメムシ類がやや多い。水稲の出穂10日前までに畦畔を含めて除草を行う。多発生が予想される場合には穂揃期と乳熟期の2回防除を行う。 2. 稲こうじ病 水和剤、粉剤を使用する場合には、出穂20～10日前に処理する。					
水稲 (普通期)	穂いもち	やや少	やや少	137～142	 トビイロウンカ
	紋枯病	多	並	143～144	
	白葉枯病	並	並	148～149	
	もみ枯細菌病	やや多	並	144～146	
	トビイロウンカ	やや多	並	152～154	
	コブノメイガ	並	やや多	159～160	
	フタオビコヤガ	やや多	多	172～173	
	斑点米カメムシ類	多	多	161～162 180～183	

	<p>1. トビイロウンカ 例年、被害がみられる圃場や地域では、第1世代虫を対象に薬剤防除を行う。それ以外の圃場においても発生状況を確認し、第2世代の幼虫ふ化揃い期（防除適期）に薬剤防除を実施する。</p> <p>2. 紋枯病 各圃場における発生状況を確認し、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展する時期（液剤、粉剤の場合は出穂10～20日前を目安とする）に防除を行う。</p> <p>3. 稲こじ病 水和剤・粉剤を使用する場合には出穂20～10日前に、粒剤の場合は出穂30～20日前を中心に処理する。</p>
水稲全般	<p>1. 海外飛来性害虫（ウンカ類、コブノメイガ） 7月12日に今後の発生予測を発表したが、高温の影響で発生が遅れると予想されたため、改めて発生予測図を作成したので、佐賀県農業技術防除センターのホームページを参照する。</p> <p>2. イネいもち病 BLASTAMIによる感染好適条件の出現状況を参考に、圃場での発生に注意する（佐賀県農業技術防除センターのホームページを参照）。</p> <p>3. 薬剤散布の際の留意点 薬剤散布は、周辺環境に十分配慮し行う。特に、ミツバチの被害を回避するため、養蜂農家に農薬の散布時期や散布時間等を予め伝達するなどの対応を取る。</p>

作物名	病虫害名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
イチゴ (育苗圃)	ハダニ類	多	やや多	214～215	 イチゴ ハダニ類
	うどんこ病	やや少	並	204～206	
	苗立枯症 (炭疽・疫病)	並	やや多	208～212	
	アブラムシ類	やや多	やや多	219～220	
	<p>1. ハダニ類 本圃での発生を抑えるため、育苗期の防除を徹底する。薬剤防除には、薬剤抵抗性の発達が少ないとされる気門封鎖型薬剤を活用する。ただし、これらの薬剤は卵に対して効果が無いので、5～7日間隔で計2回を1セットとして散布する。</p> <p>2. 苗立枯症（炭疽病、疫病、萎黄病） ランナー切り離し後の親株は、できるだけ早期に処分する。ビニル雨よけや水滴の小さい灌水装置を利用して、水はねによる菌の飛散を防ぐ。また、発病株の発生を認めた場合は、早急に圃場外に持ち出し適切に処分する。</p>				
アスパラガス	ハダニ類	多	多	322～323	 ハダニ類
	アザミウマ類	やや多	やや多	322	
	茎枯病	やや少	やや少	318～319	
	褐斑病	やや少	並	319～320	
	斑点病	やや少	並	319	
<p>1. ハダニ類 多発生すると防除が困難となるので、発生初期の防除を徹底する。虫見板への払落しを行い、寄生が認められれば直ちに薬剤防除を行う。また、薬剤が十分かかるように茎葉を整理して通風をよくするとともに、噴口を茎葉内に差し込む等して茎葉全体にかかるようにする。</p>					

作物名	病虫害名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
果樹全般	果樹カメムシ類	多	多	240~243	 チャバナエオカメムシ
	1. 果樹カメムシ類 ヒノキ毬果における寄生数、口針鞘数が平年より多くなっている。地域によっては、7月6半旬頃からに果樹園へ飛来し、被害を及ぼす恐れがあるため、園内外をこまめに見回り、早期発見、早期防除に努める(平成30年(2018年)7月30日付け病虫害対策資料第4号参照)。				
カンキツ	かいよう病	並	並	214~216	 チャノキイロアザミウマ
	黒点病	並	やや多	212~214	
	ミカンハダニ	やや多	多	234~238	
	チャノキイロアザミウマ	やや多	多	230~234	
1. ミカンサビダニ 果実への被害を防ぐために、8月中旬~9月上旬頃の防除を徹底する。 2. アザミウマ類 チャノキイロアザミウマによる果実への被害を防ぐために、8月中旬~9月上旬頃の防除を徹底する。園内及び園周囲の雑草は、ミカンキイロアザミウマやハナアザミウマ類の発生源となるので、着色始期までに除草を行う。					
ナシ	ナシヒメシクイ	やや多	並	292~295	
	ハダニ類	多	やや多	297~300	
1. 夜蛾類 被害を防止するため、忌避灯を点灯する時間及び点灯時の園内の明るさに注意する。 2. スピードスプレーヤーによる薬剤散布 全列走行を基本とし、薬液が到達しにくい園周縁部等は手散布を実施するなど、丁寧に散布する。					
ブドウ	べと病	並	多	328~330	
	褐斑病	やや少	並	330~331	
1. べと病 降雨により感染が進展するため、降雨前の予防散布を徹底する。また、べと病の罹病葉は伝染源となるので必ず除去し、園外に持ち出して適切に処分する。 2. スピードスプレーヤーによる薬剤散布 全列走行を基本とし、薬液が到達しにくい園周縁部等は手散布を実施するなど、丁寧に散布する。					

作物名	病虫害名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
茶	カンザワハダニ	多	多	407~408	 カンザワハダニ
	クワシロカイガラムシ	並	やや少	414~415	
	チャノキイロアザミウマ	多	多	413~414	
	チャノミドリヒメヨコバイ	多	やや多	412~413	
	チャノココクモンハマキ	並	やや多	411~412	
	チャノホソガ	並	やや多	410	
	炭疽病	やや少	並	402~403	
	輪斑病	並	並	403	

	<p>1. カンザワハダニ 秋芽生育期に多発すると母枝の充実が不足するため、圃場ごとに発生を確認し、発生を認めた場合は直ちに防除を実施する。</p> <p>2. チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ 一部圃場で発生が多い。秋期の発生を抑えるため、秋芽萌芽期～開葉初期に防除を実施する。多発生圃場では、さらに一週間後を目安に、追加防除を行う。なお、同一系統の薬剤は連用しない。</p> <p>3. チャトゲコナジラミ 7月下旬～8月中旬頃が防除適期である。圃内の発生状況をよく観察して、成虫が見られなくなった頃(若齢幼虫期)に防除を実施する。</p>
--	---

注1) 病害虫名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病害虫について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病害虫防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

○平年（過去10年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

○農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

○各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

○1～4ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
5ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

8月の気象条件

○病害虫の発生に関与する8月の気象条件については、福岡管区気象台発表の3ヶ月予報(平成30年7月25日)を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3ヶ月予報における8月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	30 (27.8℃)	50	高い
降水量	30	40 (207 mm)	30	並

Ⅲ. 8月の予報

水稻（早期、上場地域）

定期調査：12 圃場
調査日：7月23日



定期調査圃場の様子

1. 紋枯病

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率 2.0%（平年2.3%、前年3.7%）
平年比：並（±） 前年比：やや少（-〜±）
 - ② 8月の気象予報
気温は高く、降水量は平年並で、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
特記事項を参照

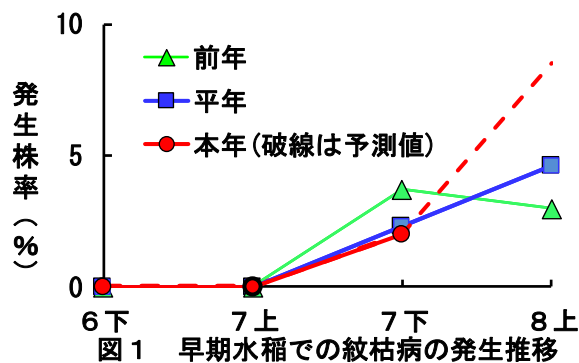


図1 早期水稻での紋枯病の発生推移

2. 斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類、アカスジカスミ

カメ、ミナミアオカメムシ等）

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の状況
 - ① 本田での20回すくい取り調査（表1参照）
平均捕獲頭数2.2頭（平年1.7頭、前年4.4頭） 平年比：並（±） 前年比：少（-）
 - ② 8月の気象予報 気温が高く、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 乳熟期（穂揃い期の約10日後）に防除を実施する。

表1 斑点米の原因となるカメムシ類の本田におけるすくい取り調査結果

20回すくい取り虫数(2018年7月23日)

調査地点	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		シラホシカメムシ類		アカスジカスミカメ		ミナミアオカメムシ
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	成虫
唐津市肥前町	1	0	0	0	0	0	0	0	0
〃	0	0	0	0	0	0	0	2	0
〃	0	1	0	4	0	0	0	2	0
〃	0	6	0	0	0	0	0	3	0
唐津市玄海町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
〃	0	0	0	0	0	0	0	0	0
〃	0	0	0	0	0	0	0	1	0
〃	0	1	0	1	0	0	0	3	0
唐津市鎮西町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
〃	0	0	0	1	0	0	0	0	0
〃	0	0	0	0	0	0	0	0	0
〃	0	0	0	0	0	0	0	0	0
本年平均	0.1	0.7	0	0.5	0	0	0	0.9	0
平年	0.4	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1	0.5	0.4	0.0
前年	1.5	0.7	0	0	0	0	0.1	2.2	0

水稻（山間早植え）

定期調査：16圃場
調査日：7月23日



定期調査圃場の様子（早植え水稻）

1. 穂いもち

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の実況
 - ① 定期調査（図1参照）【葉いもち】
発生株率 1.0%（平年8.1%、前年0.3%）
平年比：やや少（-〜±） 前年比：並（±）
 - ② 8月の気象予報
気温が高く、降水量が平年並で、やや少発生条件（-〜±）
 - (2) 防除上注意すべき事項
 - (1) 進展型病斑がみられる圃場では早急に薬剤防除を行う。
 - (2) 葉いもちの発生がみられる圃場では、穂ばらみ期の防除を実施する。発生が多いと予想される場合には穂揃い期にも薬剤防除を行う。

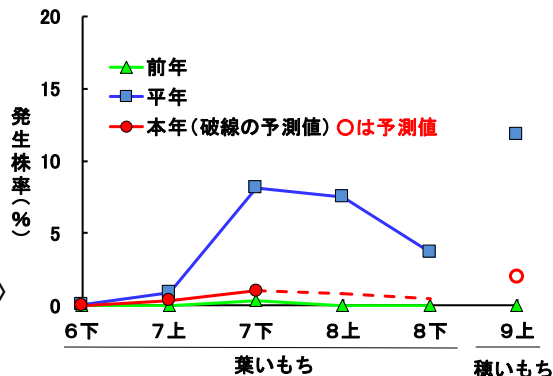


図1 山間早植え水稻でのいもち病の発生推移

2. 紋枯病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の実況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率 0%（平年 0.1%、前年 0.3%）
平年比：やや少（-〜±） 前年比：少（-）
 - ② 8月の気象予報
気温が高く、多発生条件（+）
 - (2) 防除上注意すべき事項
 - (1) 本病の発生が見られる圃場では、病斑が上位の葉鞘に進展する前に防除を行う。

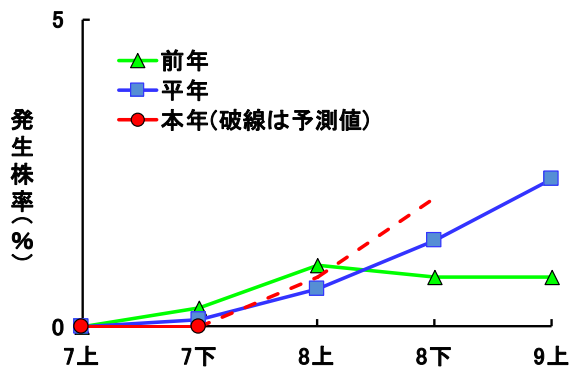


図1 山間早植え水稻での紋枯病の発生推移

3. トビイロウンカ

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) これまでの飛来状況
6月29日と7月8日に、嬉野市の予察灯において誘殺を確認した（表3）。（±）
 - (2) 発生の実況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率 0%（平年0.4%、前年0%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）
 - ② 8月の気象予報

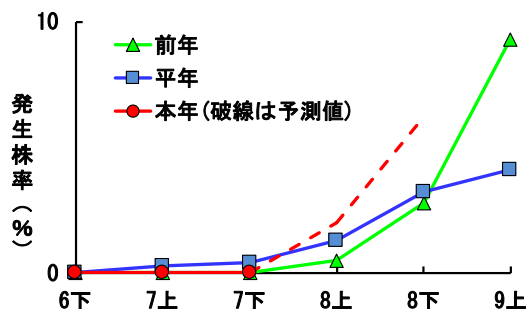


図1 山間早植え水稻でのトビイロウンカの発生推移

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生予測図 (p12、図3) を参考にして、必ず圃場における発生状況を調査し、幼虫ふ化揃い期 (防除適期) に防除を徹底する。
- (2) 本虫は株元に生息しているため、薬剤は株元にむらなくかかるように、十分量を丁寧に散布する。

4. コブノメイガ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

- (1) これまでの飛来状況
佐賀市のフェロモントラップにおいて、7月11日に誘殺を確認した (表3)。〈±〉

(2) 発生の実況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率 0% (平年 2.3%、前年 0%)

平年比：やや少〈一〜±〉 前年比：並〈±〉

(3) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、発生予測図 (p13、図4) を参考に、必ず圃場における発生状況を確認し、発蛾最盛期の7日後 (幼虫ふ化揃い期) に防除を実施する。

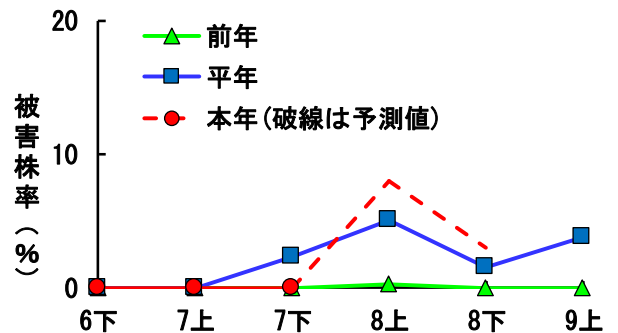


図1 山間早植え水稻でのコブノメイガの発生推移

5. 斑点米カメムシ類 (クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類、アカスジカスミ

カメ、ミナミアオカメムシ等)

1) 予報の内容

発生量：平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

- (1) イネ科植物での捕虫網によるすくい取り調査 (7月20~24日)

斑点米の原因となるカメムシ類のうち、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類の発生が平年よりやや多かった (表1)。〈±〜+〉

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類の生息数は地域ごとに異なるので、すくい取り調査や見取り調査を行い発生状況を確認する。穂揃期の20回すくい取りでクモヘリカメムシが5頭以上認められた場合は直ちに防除を実施する。
- (2) その他については、早植え水稻の斑点米カメムシ類の特記事項を参照する。

表1 斑点米の原因となるカメムシ類のイネ科植物におけるすくい取り調査結果

20回すくい取り虫数(2018年7月20~24日)

調査地点	場所	草種	クモヘリカメムシ		ホリハリカメムシ		シラホカメムシ類		アカスジカメムシ		ミナミアオカメムシ
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫
佐賀市①	雑草地	エノコログサ類	0	0	1	0	0	0	1	0	0
佐賀市②	雑草地	エノコログサ類	0	0	3	1	2	1	0	0	0
佐賀市③	雑草地	エノコログサ類	0	0	3	0	0	0	1	0	0
唐津市	雑草地	エノコログサ類	2	4	5	5	2	7	0	0	0
武雄市	雑草地	エノコログサ類	1	21	1	1	0	1	6	0	0
白石町①	雑草地	エノコログサ類	2	1	0	0	0	0	5	5	0
白石町②	雑草地	エノコログサ類	2	6	3	0	0	2	14	0	0
白石町③	道端	エノコログサ類	4	1	5	0	0	0	19	0	0
上峰町①	畦畔	オシハ	0	0	0	0	0	0	76	0	0
上峰町②	雑草地	エノコログサ類	0	0	0	0	0	0	3	0	0
本年(平均)			1.1	3.3	2.1	0.7	0.4	1.1	12.5	0.5	0.0
前年(平均)			4.4	6.3	1.4	1.1	0.2	0.8	16.8	6.3	0.1
平年(過去10年の平均)			2.7	4.7	0.9	0.6	0.3	0.6	14.3	8.4	0.0

水稻(普通期)

定期調査: 48 圃場
調査日: 7月20日~24日



定期調査圃場の様子(普通期水稻)

1. 穂いもち

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査(図1参照)【葉いもち】

発生株率 0.5% (平年3.1%、前年 3.8%)

平年比: やや少(一~±) 前年比: やや少(一~±)

(2) 感染好適条件発生状況

県内及び隣接県の観測地点計11地点におけるBLASTAM(7月19日~25日)では、感染好適条件は出現していない(表2)。<±>

(3) 8月の気象予報

気温が高く、降水量が平年並で、やや少発生条件(一~±)

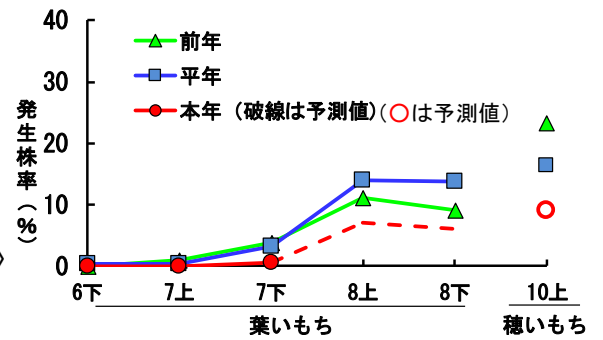


図1 普通期水稻でのいもち病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 進展型病斑がみられる圃場では早急に薬剤防除を行う。

(2) 葉いもちの発生がみられる圃場では、穂ばらみ期の防除を実施する。発生が多いと予想される場合には穂揃い期にも薬剤防除を行う。

(3) 特記事項(水稻全般)を参照

表2 BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件の出現状況

月日	佐賀県						福岡県			長崎県	
	唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	川副	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
7月19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
23日	3	—	—	—	—	—	3	—	3	—	—
24日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

2: 準好適条件(前5日間の平均気温は25℃を越えているが、湿潤が10時間以上)

3: 準好適条件(湿潤期間中の平均気温は15~25℃でないが、湿潤が10時間以上)

4: 準好適条件(湿潤期間中の気温は比較的低いが、湿潤が10時間以上)

10: 好適条件(湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した)

—: 好適あるいは準好適条件の出現なし

?: 判定不能

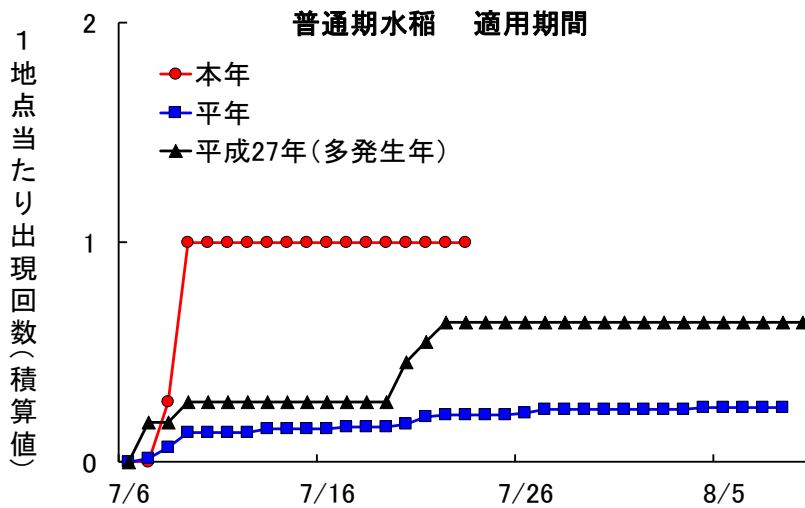


図1 BLASTAMによる感染好適条件の出現延回数
(6月16日移植の場合: 適用期間7月6日~8月9日)

2. 紋枯病

1) 予報の内容

発生量: 平年より多い (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率 0% (平年0.0%、前年0%)

平年比: 並 (±) 前年比: 並 (±)

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件 (+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 水稻 (普通期) の特記事項を参照。

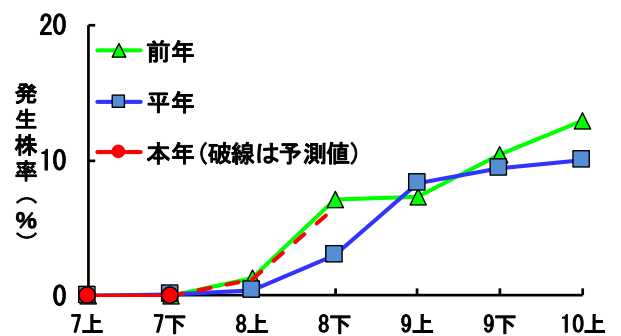


図1 普通期水稻での紋枯病の発生推移

3. 白葉枯病

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

2) 予報の内容

(1) 発生の現況

① 定期調査

発生株率 0% (平年0.0%、前年0%) 平年比: 並 (±) 前年比: 並 (±)

(2) 8月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 台風等の強風雨後に発生しやすい。発生した場合には拡大を防ぐため葉が乾くまで圃場に入らない。

4. もみ枯細菌病

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 育苗期の発生状況

県内の複数の苗床で発生を認めた (±~+)

- (2) 8月の気象予報
 気温が高く、降水量が平年並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気象予報に留意し、開花期間中に降雨が予想される場合は、出穂前後3日の間にスターナ剤による防除を行う。特に、苗床で発生した圃場では、確実に実施する。

5. トビイロウンカ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

- (1) これまでの飛来状況
 6月29日と7月8日に、嬉野市の予察灯において誘殺を確認した（表3）。〈±〉

(2) トビイロウンカの発生状況

①定期調査（図1参照）

発生株率 0%（平年0.1%、前年0%）

平年比：やや少〈一〜±〉 前年比：並〈±〉

②嬉野市の5月下旬植えの「夢しずく」で本種の発生を認めている〈±〜+〉。

(3) セジロウンカの発生状況

【本虫の発生が少ない場合、トビイロウンカが多発生しやすい傾向がある】

①定期調査（図1参照）

発生株率 4.3%（平年25.8%、前年9.8%） 平年比：少〈一〉 前年比：やや少〈一〜±〉

(4) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生予測図（p12、図3）を参考にして、必ず圃場における発生状況を調査し、幼虫ふ化揃い期（防除適期）に防除を徹底する。
- (2) 本虫は株元に生息しているため、薬剤は株元にむらなくかかるように、十分量を丁寧に散布する。

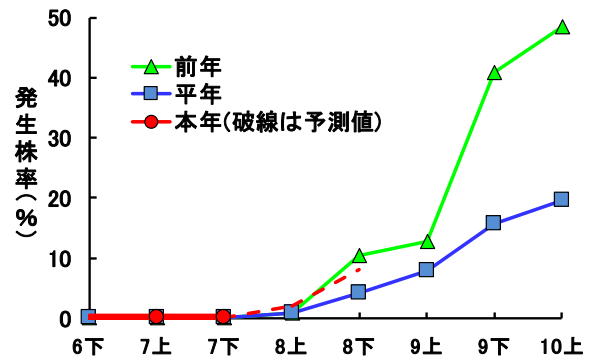


図1 普通期水稲でのトビイロウンカの発生推移

6. コブノメイガ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

- (1) これまでの飛来状況
 佐賀市のフェロモントラップにおいて、7月11日に誘殺を認めている（表3）。〈±〉

(2) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率 0%（平年1.4%、前年0.3%）

平年比：やや少〈一〜±〉 前年比：並〈±〉

(3) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、圃場における発生状況を確認し、発蛾最盛期の7日後（幼虫ふ化揃い期）に防除を実施する。

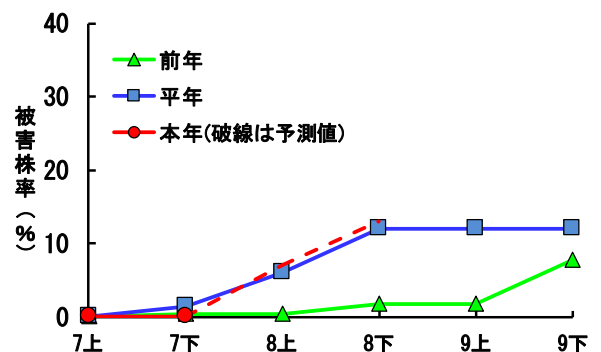


図1 普通期水稲でのコブノメイガの発生推移

7. フタオビコヤガ(イネアオムシ)

1) 予報の内容

発生量： 平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生 の 現況

① 定期調査

発生株率 0% (平年0.0%、前年0%) 平年比： やや少 (一~±) 前年比： 並 (±)

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件 (+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 8月中~下旬頃に圃場における発生状況を確認し、上位葉に多数の幼虫が認められる場合には防除を実施する。

8. 斑点米カメムシ類 水稻 (早植え) の斑点米カメムシ類の項参照。

表3 ウンカ類とコブノメイガの誘殺状況(平成30年)

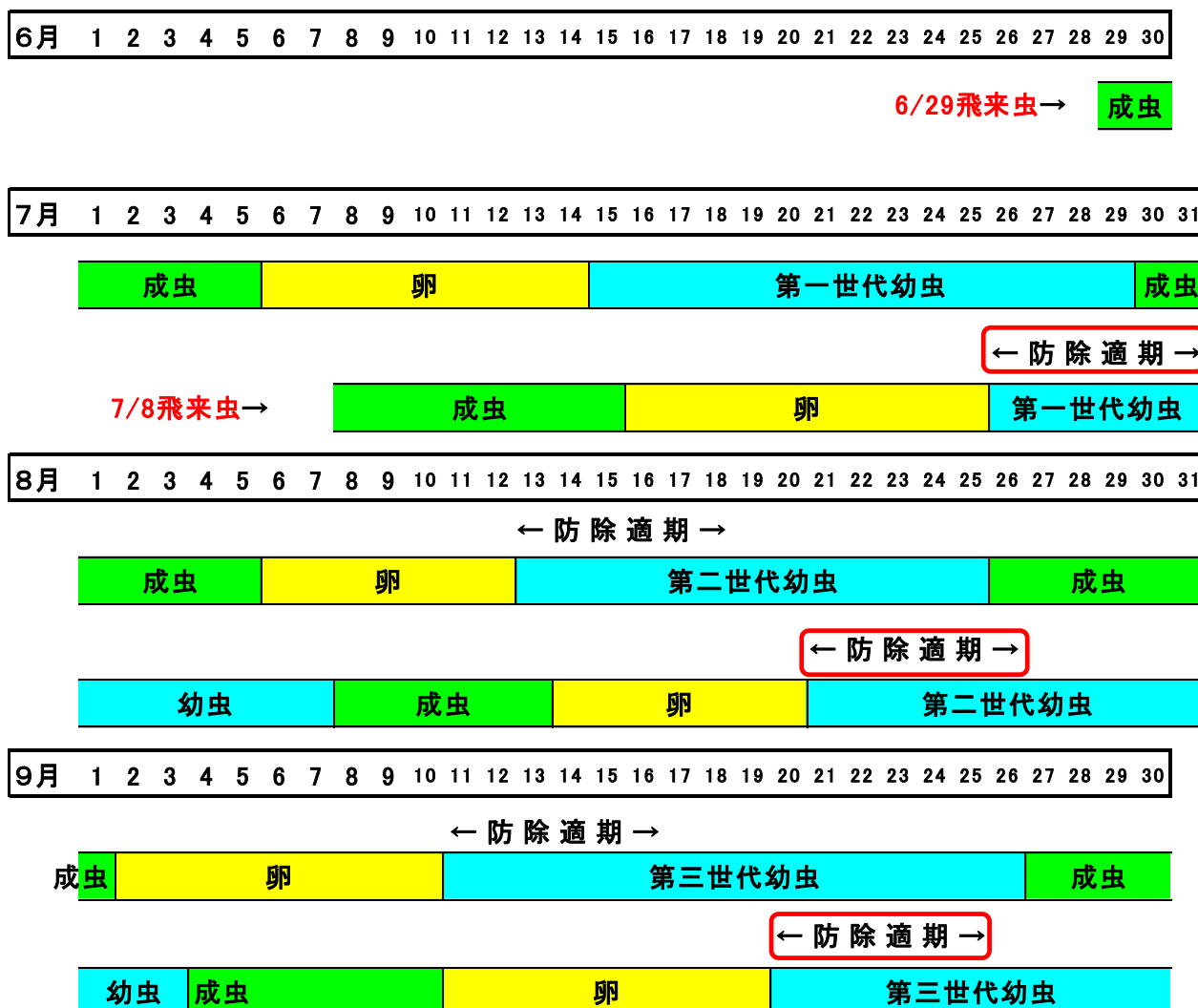
月	日	トビロウンカ						セジロウンカ						コブノメイガ							
		佐賀県			長崎県			佐賀県			長崎県			佐賀県			長崎県				
		佐賀市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市	諫早市
ネット	ライト	ライト	ライト	ネット	ネット	ネット	ライト	ライト	ライト	ネット	ネット	フェロモン	フェロモン	粘着トラ	粘着トラ	粘着トラ	粘着トラ	フェロモン	フェロモン		
トラップ	トラップ	トラップ	トラップ	トラップA	トラップB	トラップ	トラップ	トラップ	トラップ	トラップA	トラップB	トラップA	トラップB	ップ(20W蛍	ップ(20W蛍	ップ(20W蛍	ップ(20W蛍	トラップA	トラップB		
6月	1日	0	0	0	-	0	0	1	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	2日	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	4日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	21日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	22日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	23日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	24日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	25日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	27日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	28日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-
	29日	0	0	1	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	-	0	0	0	-	0	-
	30日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	-	0	0	0	-	1	-
7月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	-	0	-
	2日	-	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-	-	0	-	0	-	0	-
	3日	-	0	0	0	-	-	-	0	0	0	-	-	-	0	-	0	-	0	-	
	4日	0	-	0	0	0	0	0	-	1	0	0	0	0	-	0	-	0	-	2	-
	5日	0	-	0	0	0	0	0	-	0	1	2	0	0	-	0	-	0	-	1	-
	6日	0	-	0	0	-	-	0	-	0	47	-	-	0	-	0	-	0	-	0	-
	7日	0	-	0	0	0	0	-	2	2	0	0	0	0	-	0	-	0	-	11	-
	8日	0	-	2	0	0	0	0	-	0	1	0	0	0	-	0	-	0	-	4	-
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	-
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	-	0	-	0	-	4	-
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	-	0	-	0	-	3	-
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	-
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	-
	14日	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	-
	15日	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	-
	16日	0	-	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	-
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	-
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	-
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	-
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	-
	21日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	-
	22日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	-
	23日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	-
	24日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	-
	25日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	-
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0	-	0	-
	27日														-	0	-	0	-	0	-
	28日														-	1	-	0	-	0	-
	29日														-		-		-		-
	30日														-		-		-		-

注1)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。長崎県のデータは、長崎県病害虫防除所提供。

注2) -印は欠測

図3 トビイロウンカの発生予測(第2報)

(平成30年7月25日、佐賀県農業技術防除センター作成)

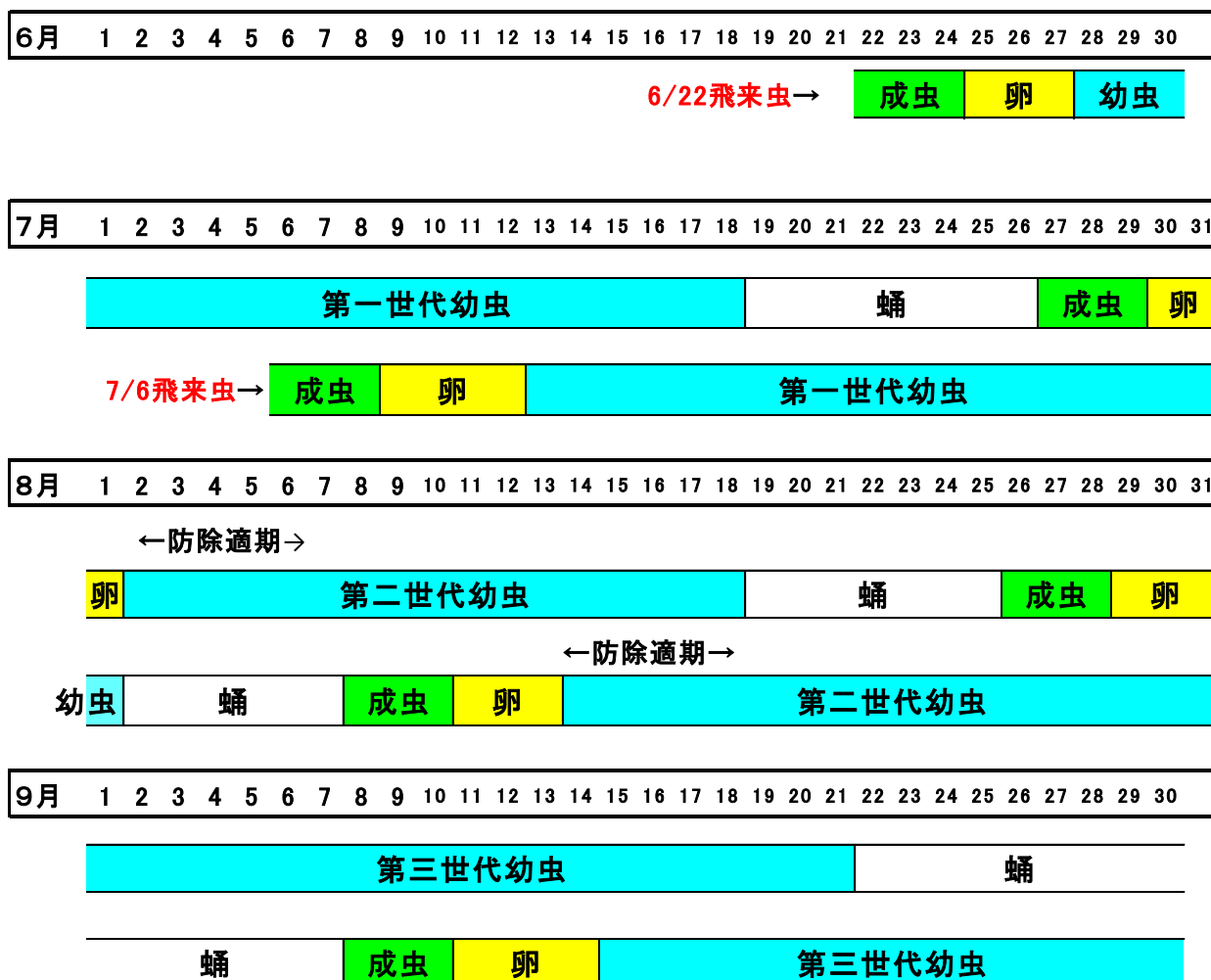


(注)

- (1) 6月28日及び7月8日の飛来虫を起点として、有効積算温度と佐賀市川副町(農業試験研究センター内)の日最高気温及び日最低気温(7月24日までは今年の日データ、7月25日以降は平年値)を基に、その後の発生を予測した。
- (2) 梅雨明け以降、気温は平年より高く推移しているため、本種の生育は遅延し、第2世代幼虫のふ化揃い期は第1報(7月12日付け病害虫対策資料第3号)で示した時期よりも3日遅れて、防除適期は8月21日～26日と予想される。
- (3) 防除適期は、幼虫ふ化揃い期である。
- (4) 飛来量及び本田での増殖量は地域及び圃場ごとに異なるので、必ず各地域及び圃場ごとの発生状況を確認して防除を実施する。

図4 コブノメイガの発生予測(第2報)

(平成30年7月25日作成、佐賀県農業技術防除センター作成)



(注)

- (1)6月22日及び7月6日の飛来虫を起点として、有効積算温度と佐賀市川副町(農業試験研究センター内)の日最高気温及び日最低気温(7月24日までは今年の日データ、7月25日以降は平年値)を基に、その後の発生を予測した。
- (2) 梅雨明け以降、気温は平年より高く推移しているため、本種の生育は遅延し、第2世代幼虫のふ化揃い期は第1報(7月12日付け病害虫対策資料第3号)で示した時期よりも3~4日遅れると予想される。
- (2) 防除適期は、発蛾最盛期の7日後(幼虫ふ化揃い期)である。
- (3) 飛来量及び本田での増殖量は地域及び圃場ごとに異なるので、必ず各地域及び圃場ごとの発生状況を確認して防除を実施する。

イチゴ（育苗圃）

定期調査：11 圃場
調査日：7月20～24日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 子苗での発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：6.5%（平年7.8%、前年8.4%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 8月の気象予報

気温が平年より高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。
- その他については特記事項を参照。

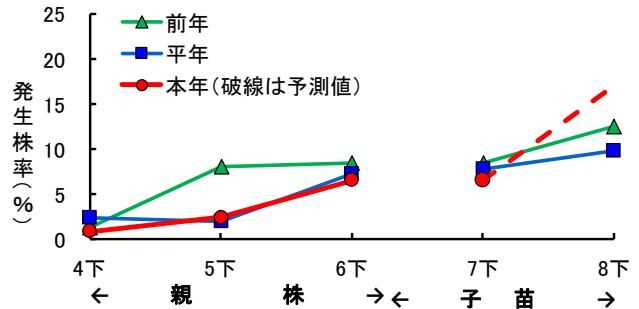


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 子苗での発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：4.7%（平年14.0%、前年11.6%）
平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 8月の気象予報

気温が平年より高く、少発生の条件（-）

3) 防除上注意すべき事項

- 定期的な薬剤防除を実施する。

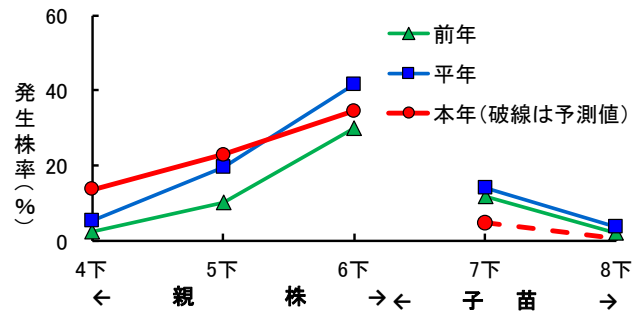


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. 苗立枯症（炭疽病・疫病）

1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 子苗での発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年0%、前年0%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 8月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

- 特記事項を参照。

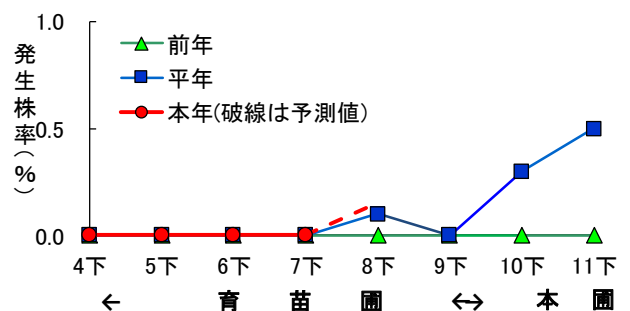


図1 イチゴ立枯症の発生推移

4. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 子苗での発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：3.3%（平年1.4%、前年1.1%）

平年比：やや多〈±〜+〉 前年比：やや多〈±〜+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本虫が寄生した苗を本圃に持ち込まないように、育苗期間に薬剤防除を徹底する。

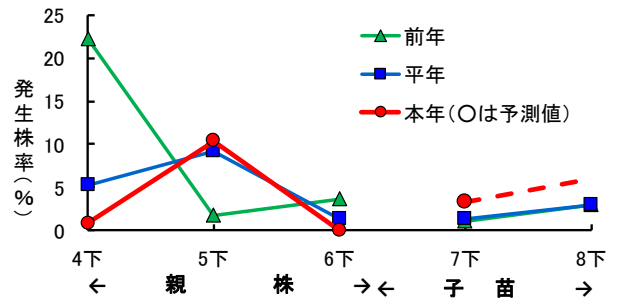


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

アスパラガス

定期調査： 8圃場

調査日：7月20日～24日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：3.1%（平年3.6%、前年0.0%）

平年比：並〈±〉 前年比：やや多〈±〜+〉

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

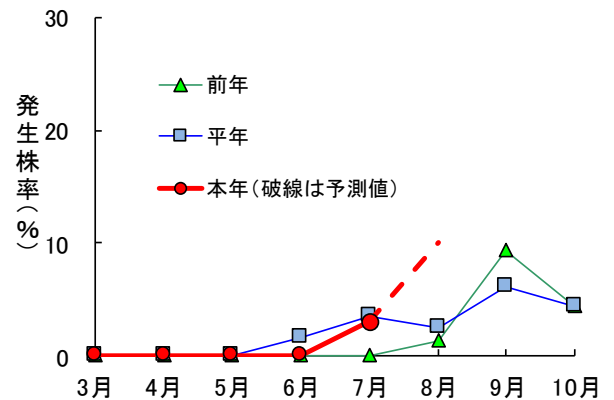


図1 アスパラガスでのハダニ類の発生推移

2. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：30.0%（平年18.9%、前年25.0%）

平年比：やや多〈±〜+〉 前年比：やや多〈±〜+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 若茎及び親茎への本虫による被害を防ぐため、虫見板（約20×30cm）への払い落とし（擬葉部を2～3回叩く）により調査し、成虫が1ヶ所当たり3頭以上認められる場合は薬剤防除を行う。

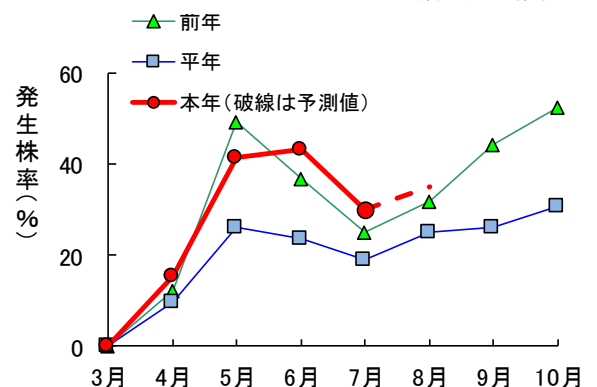


図1 アスパラガスでのアザミウマ類の発生推移

3. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：0.6% (平年 2.5%、前年 1.3%)

平年比：やや少 (<-±) 前年比：並 (<±)

(2) 8月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件 (<±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 降雨時以外は施設開口部を開放し通風を図るとともに、3週間間隔を目安とし発生前から薬剤防除を実施する。なお、前年多発生圃場及び既発生圃場、降雨日が続く場合は散布間隔を短縮する。

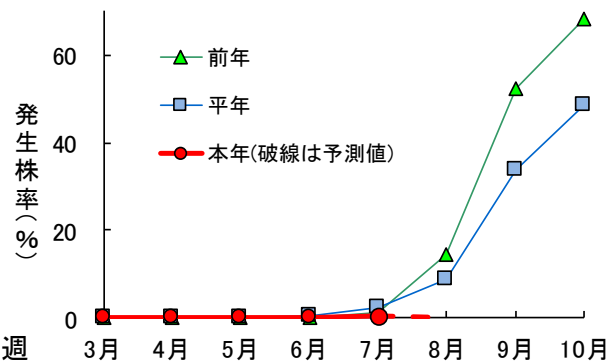


図1 アスパラガス褐斑病の発生推移

果樹全般

1. カメムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い (前年より多い)

果樹園への飛来予想時期：8月3半旬以降 (早い地域は7月6半旬以降)

※8月2半旬頃までは越冬世代成虫が発生主体であり、下記予察灯の誘殺数から発生は多いと考えられる。

※8月3半旬以降は新世代成虫が発生主体となるが、7月下旬現在、ヒノキ毬果における幼虫の寄生量が多いことから新世代の発生量も多いと思われる。

2) 予報の根拠

(1) 5月1半旬～7月4半旬までの誘殺量

① 予察灯 (図1 参照)

平年比：多 (<+) 前年比：多 (<+)

② フェロモントラップ (図2 参照)

平年比：並 (<±) 前年比：やや多 (<±~+)

(2) ヒノキ毬果における寄生数 (図3、表1 参照、7月20～24日調査)

成幼虫数平均：26.7頭 (平年 8.9頭、前年 13.4頭)

平年比：多 (<+) 前年比：多 (<+)

(3) ヒノキ毬果における口針鞘数 (図4、表1 参照、7月20～24日調査)

口針鞘数平均：9.3本/果 (平年 1.0本、前年 1.8本)

平年比：多 (<+) 前年比：多 (<+)

(4) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件 (<+)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。

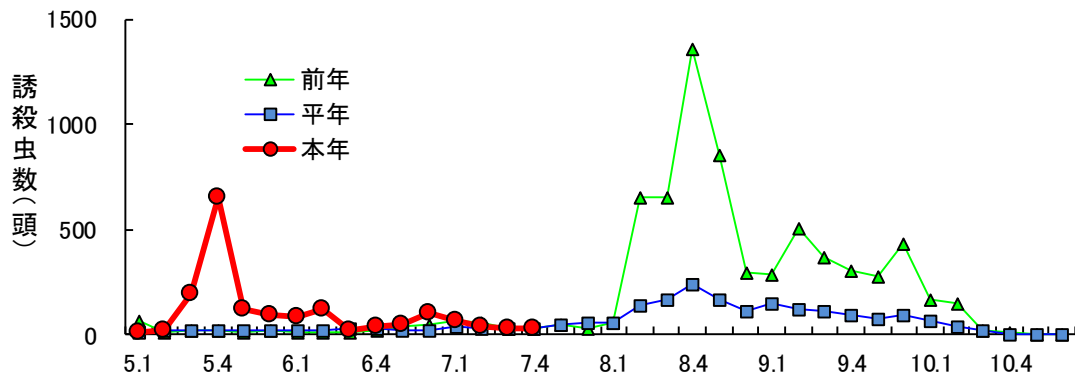


図1 予察灯（佐賀市、小城市、太良町）による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

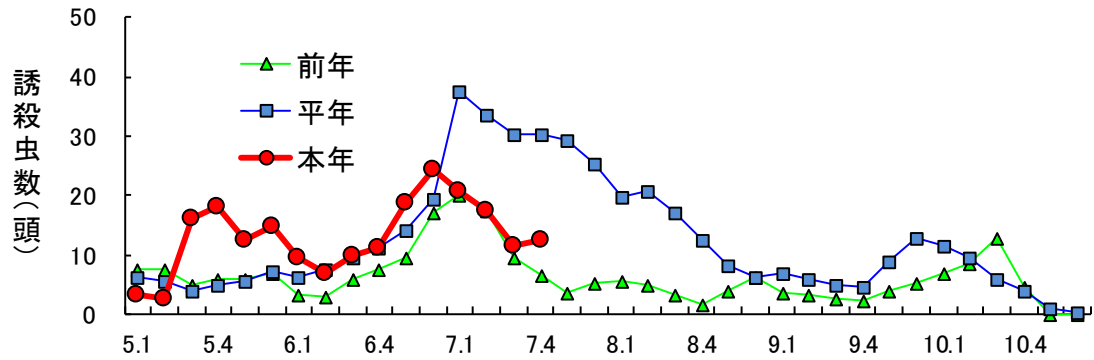


図2 フェロモントラップ（小城市、鹿島市、伊万里市、唐津市浜玉町、唐津市鎮西町、基山町）による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

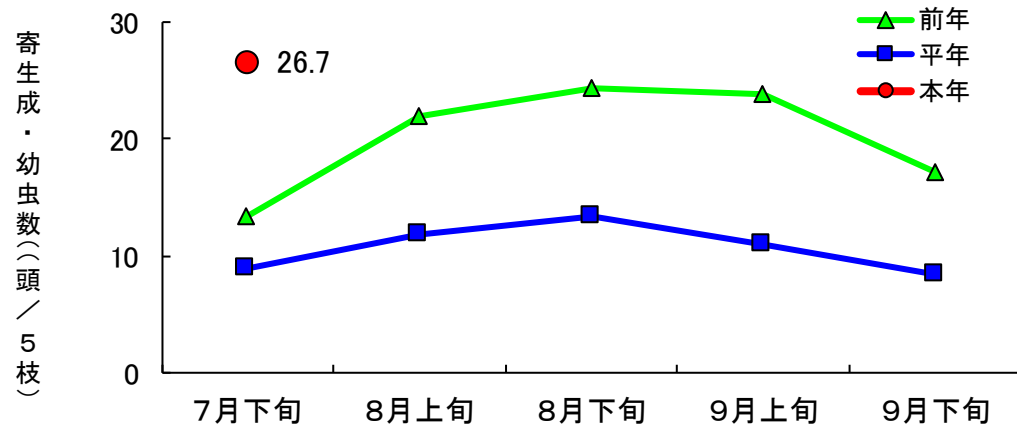


図3 ヒノキ毬果における果樹カメムシ類寄生数の推移

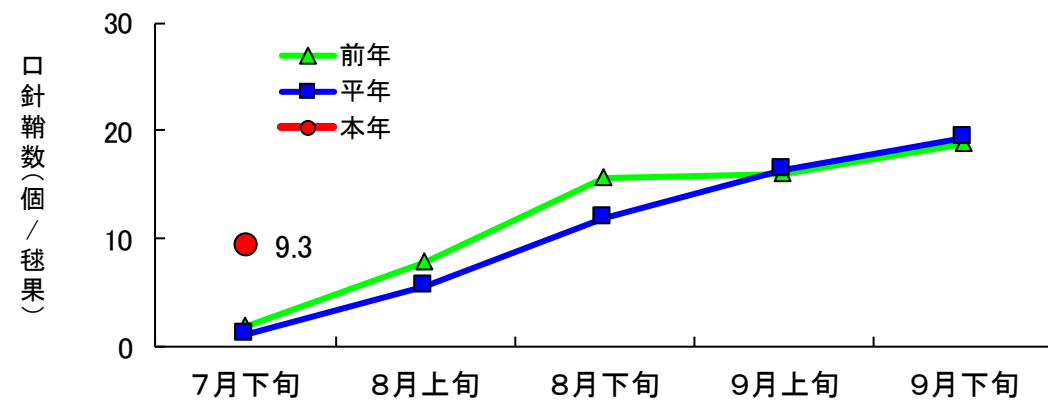


図4 果樹カメムシ類によるヒノキ毬果の口針鞘数の推移

表1 ヒノキ毬果における果樹カメムシ類寄生虫数及び口針鞘数(図3.4に関する地点別の状況)

No.	調査地	ヒノキ毬果における寄生状況 ¹⁾			離脱予想時期 (各調査日から算出)	口針鞘数 ²⁾ 7月下旬	ヒノキ毬果 ³⁾ 着果程度
		成虫	幼虫	合計			
1	上峰町	7	6	13	8月1半旬頃～	12.7	やや少
2	神埼市	1	5	6	8月1半旬頃～	12.5	やや少
3	小城市	11	33	44	8月3半旬頃～	10.1	多
4	多久市	1	13	14	7月6半旬頃～	16.1	やや少
5	唐津市1	1	18	19	7月6半旬頃～	19.3	中
6	唐津市2	14	41	55	8月2半旬頃～	11.0	やや多
7	伊万里市1	11	13	24	8月6半旬頃～	3	中
8	伊万里市2	11	32	43	8月6半旬頃～	4.1	中
9	伊万里市3	2	3	5	9月2半旬頃～	0.4	中
10	白石町	1	9	10	8月6半旬頃～	4.8	中
11	鹿島市1	8	30	38	8月6半旬頃～	4.4	やや多
12	鹿島市2	3	25	28	8月2半旬頃～	11	中
13	鹿島市3	1	27	28	8月2半旬頃～	10.5	やや少
14	太良町1	4	51	55	7月6半旬頃～	16.3	やや少
15	太良町2	6	12	18	8月6半旬頃～	4.4	やや多
	平均	5.5	21.2	26.7	8月3半旬頃～ ⁴⁾	9.3	中
	平年	-	-	8.9	-	1.0	
	前年(H29年)	6.3	7.1	13.4	-	1.8	

1) たたき落としによる調査

2) 口針鞘数が1果当たり25本を超えるとヒノキ毬果が餌として不適となりカメムシがヒノキ毬果より離脱する傾向

3) ヒノキ毬果着果程度: 福岡農総試の達観調査法(一部改変)に基づいて調査

- ・極少: ほとんど結実が見あたらない
- ・少: 梢頭部にわずかに結実
- ・やや少: 梢頭部から中央部周辺にかけて結実した樹と梢頭部にわずかに結実した樹が混在
- ・中: 梢頭部から中央部付近にかけて結実
- ・やや多: 梢頭部から最下部にかけて全面的に結実した樹と全面的に結実しない樹が混在
- ・多: 梢頭部から最下部にかけて全面的に結実
- ・極多: 梢頭部から最下部にかけて全面的にブドウ状に結実

4) 離脱予想時期の県平均は、各調査日および口針鞘数の平均値により算出

カンキツ

定期調査: 8 圃場
調査日: 7月20～24日



定期調査圃場の様子

1. かいよう病

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1、2 参照)

発生葉率: 0% (平年 0.1%、前年 0%)

平年比: やや少 (一～±) 前年比: 並 (±)

発生果率: 0% (平年 0%、前年 0%)

平年比: 並 (±) 前年比: 並 (±)

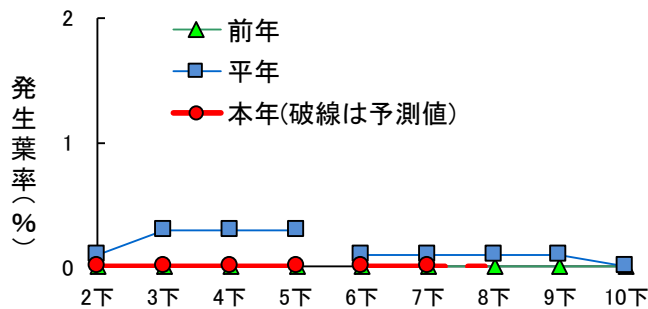


図1 カンキツかいよう病の発生推移
注) 5月下旬までは旧葉を調査

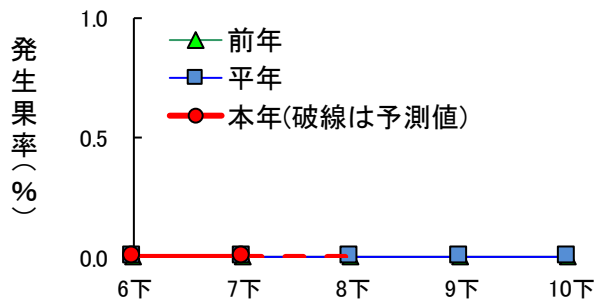


図2 カンキツかいよう病(果実)の発生推移

(2) 8月の気象予報
並発生の条件(±)

3) 防除上注意すべき事項

- 前年に発生した園や風当たりが強い園、罹病性品種(ネーブル、はるみ等)の植栽園、新梢の伸長が遅くまで続く園(幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等)では、無機銅剤水和剤(クレフノン200倍加用)で定期的に防除を行う。散布間隔の目安は20~25日とする。
- 無機銅水和剤にマンゼブ水和剤を混用すると無機銅水和剤の防除効果が低下するので控える。
- 発病した枝や葉は伝染源となるため除去し、処分する。ただし、強剪定は枝を遅くまで伸長させ、本病にかかりやすい期間を長くするため行わない。
- 台風の襲来等強風雨が予想される場合は、襲来7日前~前日までに必ず銅水和剤による防除を行う。

2. 黒点病

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生果率: 6.4% (平年6.6%、前年2.8%)

平年比: 並(±) 前年比: 並(±)

(2) 8月の気象予報

並発生の条件(±)

3) 防除上注意すべき事項

- マンゼブ水和剤散布後の次回散布時期は、積算降雨量が200~250mmに達した時点を目安とする。ただし、同雨量に達しない場合でも、散布後1ヶ月を目途に次回の散布を行う。
- 枯れ枝、剪定枝は伝染源となるため除去し、処分する。また、切り株も伝染源となるため、除去するか、ビニールで被覆を行う。

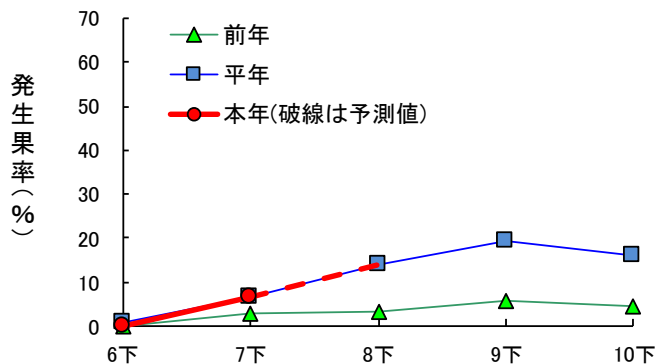


図1 カンキツ黒点病の発生推移

3. ミカンハダニ

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生葉率: 1.0% (平年3.2%、前年0.3%)

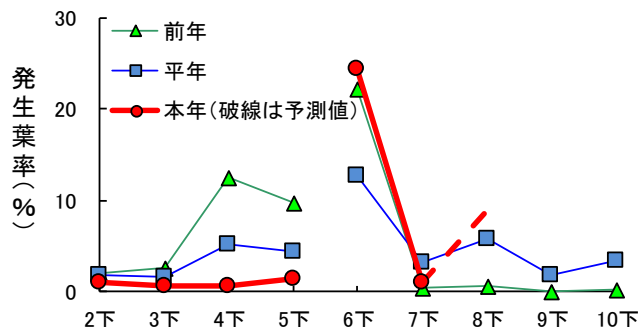


図1 ミカンハダニのカンキツでの発生推移
注) 5月下旬までは旧葉を調査

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 低密度時（寄生葉率 30%未満または1葉当たりの雌成虫数が0.5～1頭未満）からの薬剤防除を徹底する。
- (2) マシン油乳剤を7月以降に使用すると果実腐敗の発生を助長したり、糖度の低下を招く場合があるので使用しない。

4. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生果率：0.5%（平年1.2%、前年0.4%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

② 黄色粘着トラップ（図2参照）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

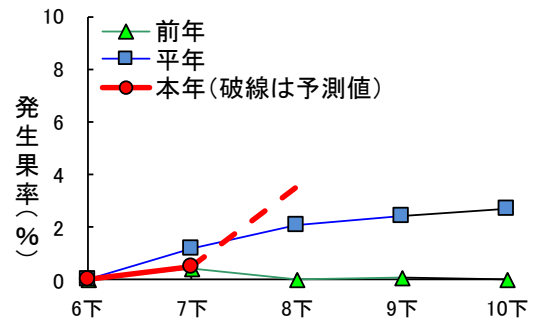


図1 チャノキイロアザミウマによる被害果の発生推移

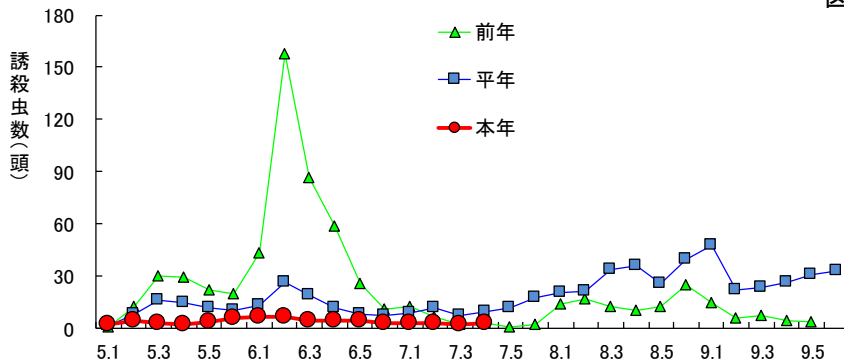


図2 黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの誘殺数の推移（小城市 果樹試験場調査）

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項参照。

ナシ

定期調査（6圃場）
調査日：7月20日

1. ナシヒメシンクイ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① ナシ園地に設置したフェロモントラップ（図1参照）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）



定期調査圃場の様子

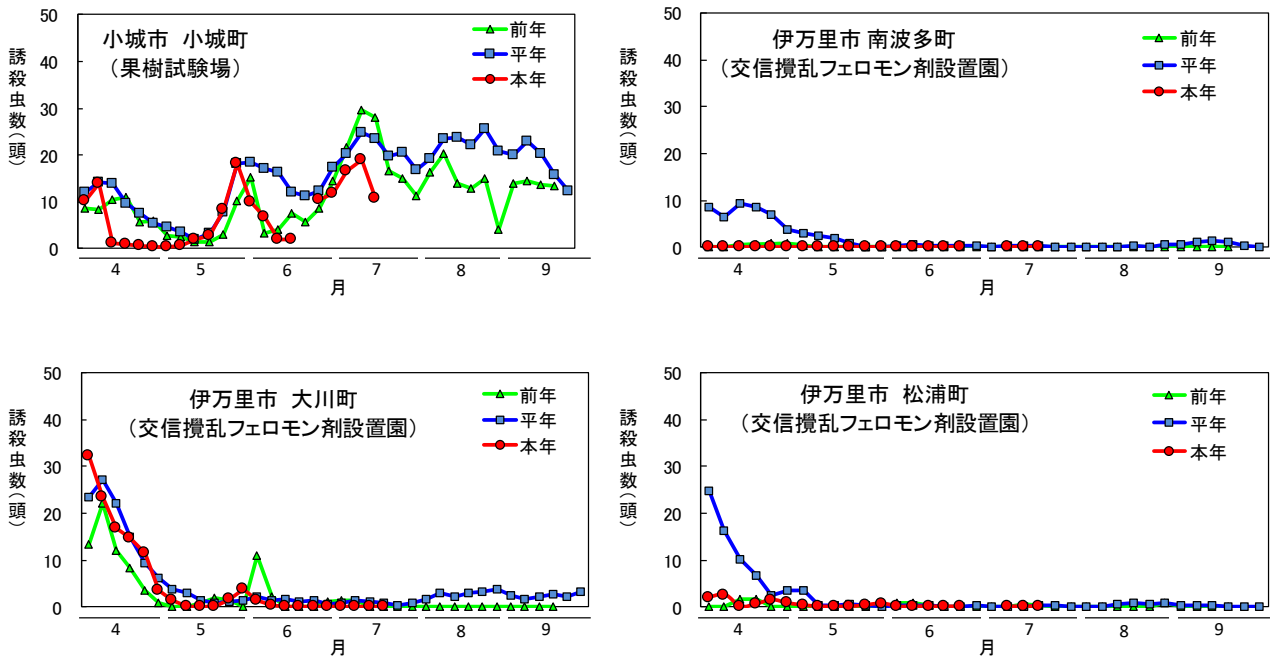


図1 フェロモントラップによるナシヒメシクイの誘殺数の推移
(果樹試験場、西松浦農業改良普及センター調査)

※台風の影響により、小城市小城町の6月4～5半旬、伊万里市南波多町及び松浦町の6月6半旬～7月1半旬のデータ欠測。

②サクラに設置したフェロモントラップ (表1 参照)

伊万里市3ヶ所での7月第1半旬から第4半旬までの誘殺数は前年より多い (+)

表1 サクラに設置したフェロモントラップにおけるナシヒメシクイの誘殺数 (頭)
(西松浦農業改良普及センター調査) ※7月1～4半旬の合計値

地点名	H27年	H28年	H29年	H30年
伊万里市 南波多町	3	0	0	0
伊万里市 大川町	8	27	17	13
伊万里市 新天町	42	50	38	108
計	53	77	55	121

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件 (+)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 使用する薬剤の選定 (収穫前日数や汚れ) には十分注意し、収穫まで7～10日間隔で薬剤散布を行う。
- (2) 交信攪乱フェロモン資材設置園においても、10～14日間隔で薬剤防除を行う。
- (3) 防除薬剤として、合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド系薬剤を使用するが、ネオニコチノイド系薬剤については、ハマキムシ類に対する防除効果が劣るので注意する。

2. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量: 平年より多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

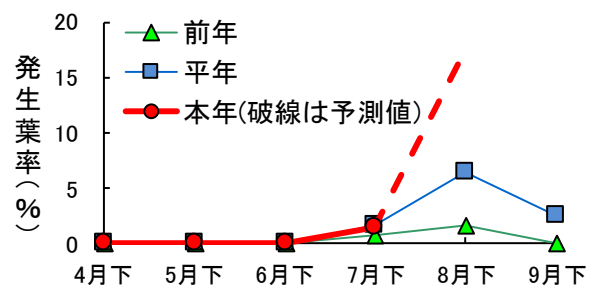


図1 ハダニ類のナシでの発生推移

発生葉率：1.5%（平年1.6%、前年0.8%）
 平年比：並（±） 前年比：やや多（±）

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) ハダニ類は高温乾燥で急増するため、低密度時（寄生葉率 10%未満または1葉当たりの雌成虫数が0.5～1頭未満）からの防除を徹底する。
- (2) 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同系統の薬剤は年1回の使用とする。また、前年に使用した殺ダニ剤は使用しない。

ブドウ

定期調査（6圃場）
 調査日：7月20～24日



定期調査圃場の様子

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生葉率：6.2%（平年6.7%、前年0%）
 平年比：並（±） 前年比：多（+）

(2) 8月の気象予報

並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除効果が高めるために、棚面の上からも散布する。
- (2) ストロビルリン系殺菌剤（アミスターフロアブル、ストロビードライフフロアブル等）に対し耐性菌が発生しているため、本系統薬剤は本病の防除には使用しない。
- (3) その他については、特記事項を参照。

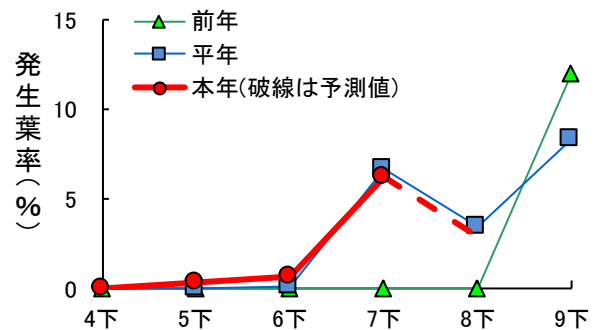


図1 ブドウベと病の発生推移



定期調査圃場の様子

1. カンザワハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生葉率：0.7%（平年0.5%、前年0.6%）
 平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 生息部位である葉裏へ葉液が十分にかかるように丁寧に散布する。また、薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤は年一回の使用とする。
- (2) その他については特記事項を参照。

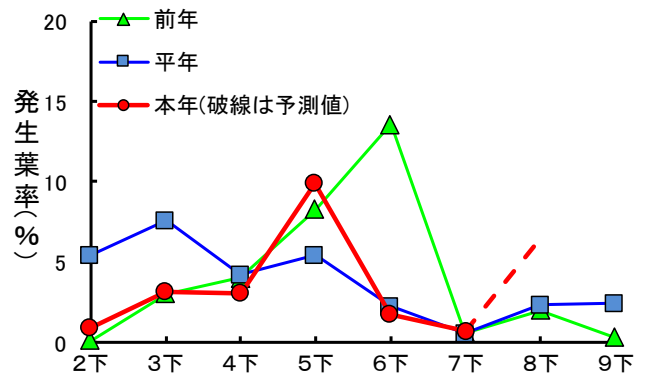


図1 カンザワハダニの茶での発生推移

2. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査（図1参照）

20回たたきおとし虫数：20.1頭（平年13.9頭、前年12.7頭）

平年比：やや多（±～+） 前年比：やや多（±～+）

② 吸引粘着トラップ（図2参照）

平年比：やや少（-～±） 前年比：少（-）

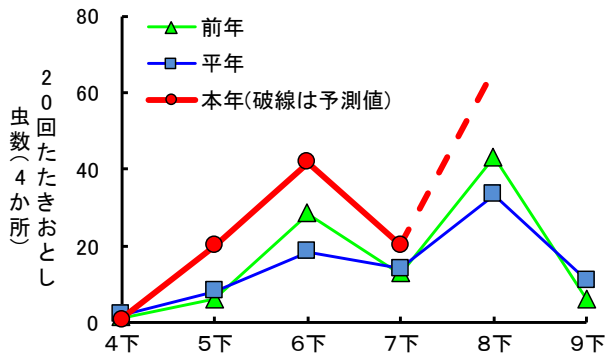


図1 チャノキイロアザミウマの茶での発生推移

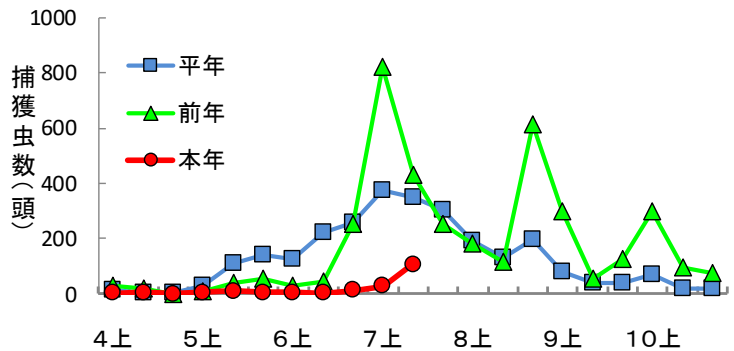


図2 吸引粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの旬別捕獲虫数の推移(嬉野市嬉野町、茶業試験場調査)

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

3. チャノミドリヒメヨコバイ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査（図1参照）

20回たたきおとし虫数：1.9頭

（平年2.3頭、前年2.9頭）

平年比：並（±） 前年比：やや少（-～±）

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

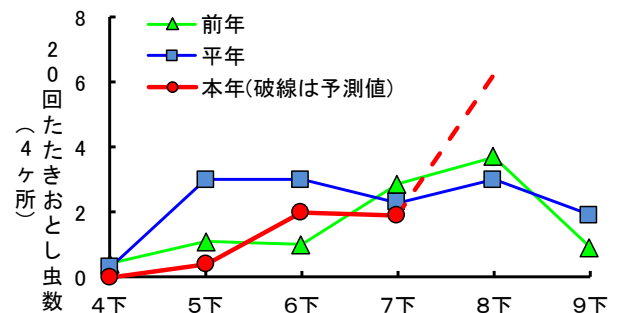


図1 チャノミドリヒメヨコバイの茶での発生推移

4. チャノコカクモンハマキ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

①定期調査 (図1 参照)

被害葉数 : 3.7 枚/m² (平年 2.3 枚、前年 0.7 枚)

平年比 : やや多 (±~+) 前年比 : 多 (+)

②フェロモントラップ (図2、3参照)

平年比 : 並 (±) 前年比 : やや多 (±~+)

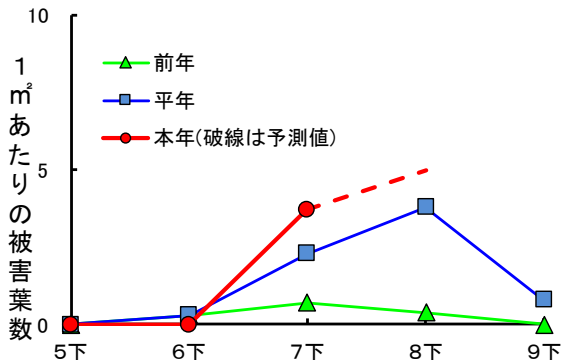


図1 チャノコカクモンハマキの被害葉数の発生推移

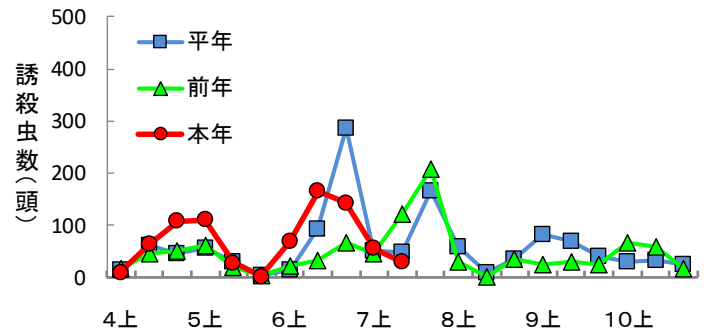


図2 フェロモントラップによるチャノコカクモンハマキの旬別誘殺数の推移 (嬉野市嬉野町、茶業試験場調査)

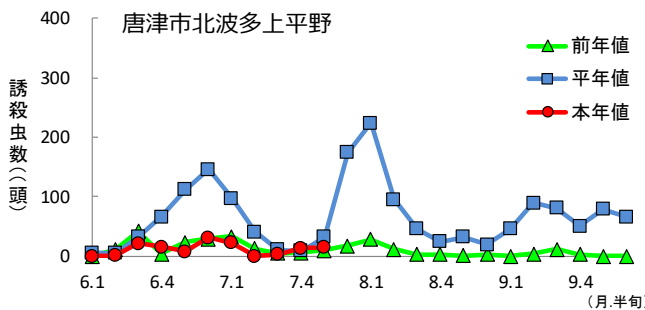
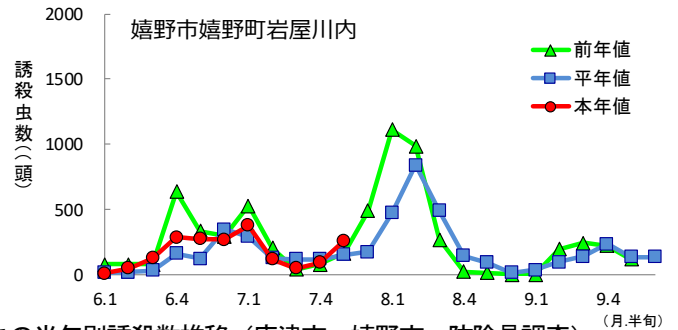


図3 フェロモントラップによるチャノコカクモンハマキの半月別誘殺数推移 (唐津市・嬉野市、防除員調査)



3) 防除上注意すべき事項

- (1) 8月上~中旬頃が重点防除時期である。葉がつづられると防除効果があがりにくいいため、発蛾最盛期から7~10日後に防除を行う。

5. 炭疽病

1) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照、H30 より5月調査追加)

発生葉数 : 0 枚/m² (平年 4.6 枚、前年 1.9 枚)

平年比 : やや少 (一~±) 前年比 : 並 (±)

(2) 8月の気象予報

並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本病は雨滴により新芽に感染するため、開葉初期の予防散布を実施する。

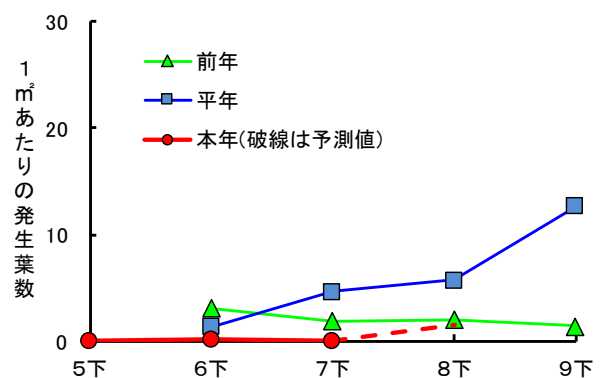


図1 炭疽病の発生葉数の推移

連絡先 : 佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
 Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp